

麻布飯倉天文台の思い出

——父・寺尾 寿のことども——

荒 井 芳

そこは東京市で一番標高の高いところということで、麻布区飯倉三丁目一番地、なつかしい名前です。東京天文台、その官舎で私は初代天文台長寺尾 寿の娘として生まれました。そして十五歳までそこで育ちました。でも今日は私の生い立ちをかくのではございません。父、寺尾 寿の思い出をとの御要望にこたえて父のことをかかなくては……

「あなたのお父様は日本一えらい数学家なんですからあなたも算術がよくできなくては恥ずかしいですよ。」とよく学校の先生にいわれました。

どこがそんなにえらいのかしらとふしぎに思われる位平凡なやさしい父でした。「辺幅を飾らぬ」というと大変きこえがよろしいのですが、うっかりすると浴衣を裏返しに着たり靴下をちんばに穿いたりして母にたしなめられておりました。

夏休みになると葉山や逗子などに避暑、一と夏を過し水泳をおしえてくれた父でした。一と月に一度、飯倉の熊野神社（天文台のすぐ下にあり、俗におくまんさまといっておりました）の縁日につれてってかれておかげを見させてくれました。あとでできた話ですが、その神社は小さいながら有名な神社で、そこで舞うおかげらは十指に数えられるような立派なものでした。そうであるが、今でもふしぎに思うのはいつも私一人で、兄も妹もありませんのに……。天文台の職員の方々から「よし子さんは台長の腰巾着ですね」とからかわれていました。

職員といえはその頃の台員の方々を思い出してみよう。まず、二代目台長平山信先生。御宅が天文台のお近くでしたので家族ぐるみの御つき合いです。平山先生御夫妻にも随分可愛がって頂き、御長男の嵩様、御嬢様の百合子様方とよく遊んだものでした。先日伺いましたところによりますと、嵩様の御息様つまり信先生の御孫様が今天文台に御勤務とか。おなつかしい気がいたしました。私の件が今丁度六十歳ですから、平山若先生も同年輩かもうすこし御若いお年頃でいらっしゃるでしょうね。

天文台官舎は同構内にありました。広いばかりで粗末な建物でしたが庭はとてもすてきでした。広いひろい手入れのよく行きとどいた芝生の周囲を桜の木がびっしりとかこんでおりました。上野や飛鳥山にわざわざ出かけなくても、家に居ながらにしてお花見ができました。庭



著者近影

に出て東を見れば品川の沖御台場が一望のもとに眺められ、西には秀峯富士の姿を飽かずながめることができました。おそらく東京第一の眺望のよろしい場所であったのではないのでしょうか。

官舎のつづきに粗末な畳敷きの部屋がありました。そこに橋本昌矣氏と小倉伸吉先生がまだ学生でいらして、その汚い部屋に起居して自炊をしていらしたのを覚えております。小学生だった私はよくそのお部屋にお邪魔して画をかいて頂いたことをまだはっきりとおぼえております。今はお二人とも他界なさいましたが、今もなおまぶたに残っております先生方は、平山清次先生、帆足先生、有田先生、早乙女先生、降矢先生、みなさま今は故人となられたことをごいませうね。

先日はからずも高瀬、成相両先生の御訪問を受け、何か思い出を書くようにとの事でしたのでつたない筆をとりましたが、近年大分ぼけていていうこともかくことも支離滅裂でお恥ずかしい次第ですがどうぞおゆるしくださいませ。(八十二歳になりました。父の歿しましたのが六十九歳でございましたから十三ヶ年生きのびておりますね。)